

大牟田病院看護部便り 第26号

平成 28 年 8 月 20 日発行
編集・作成 副看護師長会
13 病棟・地域医療連携室



今年は残暑が厳しくまだまだ夏の暑さが続いています。
リオオリンピックが開催され、多くの日本人選手が活躍され、感動しました。
今から 2020 年の東京オリンピックが楽しみです。



訪問看護

地域医療連携室 退院調整看護師
副看護師長 松原 浩子

本院が行う訪問看護は、外来診療の一環として行われる看護活動です。呼吸器疾患や神経難病で入院中に在宅酸素・NPPV・経管栄養などを導入し在宅療養となった方や ADL 低下、高齢者で介護者がいない方に、病状や生活状況確認等の目的で訪問看護を行っています。現在は、火曜日・木曜日の午後を中心に、外来看護師 2 名と退院調整看護師で対応しています。平成 27 年度は、延べ 85 件の訪問を実施しました。在宅での生活に不安を抱きながら退院した患者や家族を訪問する事で「安心しました」「心強いです」などの声が聞かれ安心感に繋がっています。今後は在宅医療を受けながら療養生活を送っている外来患者にも対象を広げ、生活や介護状況把握した上で外来診療を進めていくことで医療・看護の充実が図られ、安心して過ごしていただくようにしていきたいと思えます。今後さらなる専門性を活かした訪問看護に努めていきます。



「Omuta - Cocolo - Link」

地域医療連携室 退院調整看護師
副看護師長 松原 浩子

地域の訪問看護師と顔の見える連携を目指して、「登録訪問看護師制によるオープンシステム」(Omuta - Cocolo - Link) を平成 27 年 9 月から稼働し現在まで、登録訪問看護ステーション 11 件、登録訪問看護師数 24 名になり、8 事例の訪問がありました。訪問看護師からは必要な情報を患者、家族、医療者から取ることができ在宅へ向けての連携がしやすくなり、患者からは「退院後お世話になる訪問看護師が来てくれて安心した」との反応がありました。病院看護師も「在宅での様子を直接聞くことができ、入院中のケアに活かして良かった」との意見がありました。訪問看護師と病院看護師の互いに顔が見える情報交換が



可能となり、患者が安心して入院生活を送れると共に、自宅へ退院した後も継続した看護を受けることに繋がるシステムを、今後訪問看護師の皆さんに多く利用していただき、病棟看護師も積極的に情報交換をしていきましょう。



飲み物券で安心・安全♡ ふれあい喫茶♪

8 病棟 看護師長
太江田 直美

ふれあい喫茶では飲み物を頂きながら、ピアノ・ハーブ・フルーツ等で、曲もジャンルを問わず、美しく楽しい演奏を聴くことが出来、患者様にとっては何よりの癒しの場になっていると思います。

ふれあい喫茶では、コーヒー、ジュースなどの飲み物が提供されています。しかし参加者には嚥下機能評価により、はちみつ状・ポタージュ状またはゼリー状などの形態でなければ誤嚥のリスクが高まる患者様が多くおられます。全病棟から参加される患者様個々にあった飲み物の提供ができるように、「ふれあい喫茶用(飲み物券)」を作成し、飲み物の形態を記載、テーブル上に提示し、それを確認して飲み物の準備するようにしました。それを見れば、準備する飲み物の形態が分かるため、スムーズに提供ができると共に、むせなどの症状もなく、音楽を聴きながら穏やかな時間を過ごしていただく事にも繋がっていると思います。

今後も患者様が安全に、楽しい時間を過ごしていただけるよう取り組んで行きたいと思えます。



ふれあい喫茶の様子



院内デイケア「生き生き倶楽部」の取り組み

6 病棟 看護師長
鳥井 太貴

平成 27 年 9 月より入院中の認知機能の低下した患者様の睡眠や活動の生活リズム調整、楽しみのため院内デイケア「生き生き倶楽部」を始めました。現在、週 5 回、看護師 2 名で 14 時～15 時までレクリエーションを行っています。

レクリエーションでは、カラオケは特に人気があり、普段は小さい声で話す患者様が得意な歌になると大きな声で披露され拍手が湧くことや、病室で歌詞カードを見て何度も練習されている姿がみられるなどベッド上では見られないその方本来の姿を垣間見る場面が何度もありました。また院内デイケアに参加する事で交流の場が生まれ、あの人のように元気になりたいと目標にされるなど前向きな意識が芽生えられており、患者様にとって思い出や生きがいとなっている大切な場であることを感じています。

一人でも多くの方の生活の質の維持向上を目指し、今後も入院患者様が「生き生き」と活動出来る場になるように取り組んでいきたいと思えます。



看護学生のインターンシップを受け入れての感想

6 病棟 副看護師長 倉岡 佑圭 13 病棟 副看護師長 小柳 佳代

インターンシップで 2 名の学生さんが 6 病棟と 13 病棟にそれぞれ見えましました。6 病棟を見学された学生さんは認知症看護に興味があり「うまくコミュニケーションをとることができない患者さんに対して、なにかできるような看護師になりたい」という思いを持っていました。患者さんと関わる姿は目が輝いており、いきいきとしていたことがとても印象的でした。

13 病棟(筋ジス病棟)では患者さんとのコミュニケーションツールやナースコールの種類がたくさんあることに驚いていました。サークル活動のカラオケでは患者さんとふれあい楽しく過ごしました。

病棟スタッフも普段の看護実習と違い学生さんに声がかかりやすいこともあり、大牟田病院の良い所や、病棟の雰囲気伝えてくれました。私達看護師はもちろん、患者さんやご家族もよい刺激を受ける機会となりました。

さらに 7 月 27 日(水)に 15 名の地元高校生が『ふれあい看護体験』に参加されました。

※この内容は大牟田病院ホームページでも閲覧できます。